（様式第５号）

会　議　録

１　　会　議　名　　　地域クラブの円滑な推進に関する市民会議

２　　会議種別　　　市政運営上の会合

３　　議　　　題　　　・北九州市における現状と取組について
　　　　　　　　　　　・国の動向について
　　　　　　　　　　　・意見交換

４　　開催日時　　　　令和８年5月２７日（水）
　　　　　　　　　　　　　　１７時００分　～　１８時０５分

５　　開催場所　　　　小倉北区役所　東棟８階　８１２会議室
　　　　　　　　　　　（北九州市小倉北区大手町１－１）

６　　出席者氏名（敬称略）

【構成員】

高田俊也、大島まな、菱谷恒一、石川隆之、三浦豊、穴井秀和、上村英樹、園田美恵子、下田功、佐々木和古、森山陽介、神田摩耶、梅林繁喜

【オブザーバー】

三浦隆宏

【外部識者】

津々木晶子＜スポーツ庁地域スポーツ課 課長補佐＞　※オンライン参加

【事務局】

太田教育長、星之内教育次長、栗原企画調整部長、古小路生徒指導担当部長、海老部活動地域展開担当課長、木村部活動地域展開担当課長、髙尾企画調整課長

７　　議事概要

- 開会にあたり、太田教育長より挨拶
- 「開催要綱」の説明、構成員の紹介、事務局職員の紹介
- 高田構成員を座長に選出

８　　会 議 経 過（発言要旨）

議題（１）「北九州市における現状と取組等について」事務局より説明

議題（２）「国の動向について」スポーツ庁スポーツ課より説明

議題（３）意見交換

【構成員】

地域クラブ活動の推進は、子どもたちに多様な選択肢が開かれ、自由に幅広く活動できるようになる可能性を広げる取組であり、素晴らしい。一方で、地域の受け皿の状況、指導者の確保、指導内容や質、地域による活動機会の差などについて、実態を把握しながら進める必要がある。

また、生徒アンケート等による子どもたちの声に加え、保護者の声も確認してほしい。共働き家庭が多い中で、保護者に過度な負担がかからない運営体制、経済的負担、移動手段などについても検討が必要である。

子どもたちのために、いかによりよい条件整備ができるかが大事だと思う。

【構成員】

地域クラブ活動の推進は、学校の部活動の枠にとらわれず、子どもたちの多様なニーズに応える取組であり、教員が子どもと向き合う上でも重要である。

一方で、取組を進めるには、教職員や保護者が趣旨や内容を十分に理解しておく必要がある。理解促進のための資料やツールがあれば、各中学校で教職員への説明がしやすくなるため、検討してほしい。

【構成員】

本市の「部活動地域展開推進計画」等については、学校で教職員に説明する機会もあったが、理解には個人差があり、学校によって受け止め方に差がある。教職員が、改めて取組の趣旨を理解できる機会が必要である。

また、小学校６年生やその保護者にとって、中学校でどのような活動ができるのかについては大きな関心事である。小学校の保護者からは「部活動がなくなるのではないか」といった不安の声もあるため、小学校段階から情報が届くようにすることが重要である。

【構成員】

文化的な活動についても、スポーツと同様に、北九州市の施策に沿って進めていきたい。今後、生徒の文化的活動の機会を確保する上では様々な課題が想定されるため、関係者の意見を聞きながら、連携して課題解決に取り組んでいきたい。

【構成員】
　子どもたちのためにという視点を第一に考えることが大切である。保護者や教員の間では、噂や断片的な情報により、「部活動がなくなるのではないか」といった声もある。このような戸惑いが広がっている状況を改善するため、分かりやすい方向性を示すことや説明用ツールが必要ではないか。
　自分自身も部活動の保護者会や、合同部活動で地域クラブの立ち上げにも関わっている。直接かかわる当事者として、また市ＰＴＡ協議会として、保護者の様々な声を届け、よりよい形につなげていきたい。

【構成員】
　総合型地域スポーツクラブとして、地域の受け皿となるべく活動をしているが、学校関係者にも十分に知られておらず、認知度が低いと感じている。スポーツクラブ側からの情報発信をもっと行っていかなければならない。
　また、任意団体として、事故にどう対処するのかというリスクマネジメントを整理する必要がある。保護者には、事故発生時の学校部活動との違いなどを理解してもらう必要があり、我々としても協力したい。
　昨年度、スケートボード、ウエイトリフティング、弓道など、これまで中学生が触れる機会の少なかった競技を実施した。参加した生徒の反応も良く、こうした新たな活動機会をさらに広げていきたい。

【構成員】
　北九州市スポーツ協会には、現在 36 の競技団体が加盟している。地域クラブ活動の推進については、競技団体によって受け止め方や準備状況が様々であり、すでにクラブを立ち上げて活動している団体もあれば、学校の枠を越えた関わり方を検討している団体もある。
　一方で、部活動がなくなることで、子どもたちが活動を続けられなくなるのではないかという心配がある。また、競技団体では指導者の高齢化も進んでおり、今後の指導等に不安を抱える団体もある。
　スポーツ協会としては、今後も競技団体への情報共有や、市からの要望の周知などを通じて協力していきたい。

【構成員】
　地域クラブの指導者研修会において、現在 614 名が認定証の交付を受けているとのことだが、その中で教職員がどの程度の割合を占めているのか。

【事務局】
　約３割程度が教職員であると見込んでいる。その他の約７割は一般の方であるが、学生はほとんどいない。

【構成員】
大学生など、教職員以外の方に指導を任せる場合には、研修を受けてもらい、責任を持って指導できる環境を整える必要がある。研修内容の充実は大きなテーマであると認識した。

【構成員】
北九州市はクラブチームが盛んな地域だと言える。土日にスポーツ系のクラブチームで活動し、平日に文化系の活動に親しむなど、柔軟な活動のあり方も考えられる。
また、地域で活動している方やボランティア、スポーツ開放を利用しているクラブなど、地元の人材との連携も重要である。地元の声を集めながら、地域や郷土を大切にする視点を持って進めていく必要がある。

【構成員】
北九州音楽協会は、北九州近郊のプロの演奏家が集まる団体であり、自身も管楽器の専門家として、中学校や高校の吹奏楽部の指導に関わっている。
吹奏楽部については、クラブチームという形で、外部の一般バンドや市民団体が中高生を受け入れて活動している動きもある。そのような市民団体等であれば、団体の楽器や各学校の部活動で使用している楽器を使うことで、受け皿になれると思う。一方で、新たにクラブチームを立ち上げる場合、楽器の確保に多額の費用が必要となり、中古品でも 1,000 万円を超える可能性がある。学校にある楽器の活用や、学校との連携のあり方について検討が必要である。

【構成員】
地域クラブ活動の推進は、少子化や教職員の働き方改革を踏まえると必要な取組である。一方で、地域によって指導者や受け皿に差があり、送迎や交通費の負担から、参加したくても参加できない子どもが出てくる懸念がある。
地域には、まだ十分に活かされていない人材や経験を持つ方々が多くいる。そうした地域の人材や資源を活かし、子どもたちの活動機会を確保できる仕組みを考えていくべき。また、家庭環境に左右されず参加できる仕組みづくりも重要である。

【構成員】
学校部活動は、教育の一環としての信頼、平等、安心が担保されている。地域クラブがそれに代わる活動の場となるのであれば、指導者の情報、指導方針、練習方法など、選択に必要な情報を分かりやすく開示することが求められる。
認定地域クラブによる情報発信に加え、教育委員会としても一定の形式で情報を整理し、発信していくことが、円滑な地域クラブ活動の推進につながる。

【オブザーバー】
本日の意見を聞き、情報がまだ十分に行き渡っていないことが課題であると感じた。先ほど、小学校を卒業する子どもや保護者が「部活動がなくなるのでは」と不安に思っているという話があったが、地域の方々にも十分に理解されていない状況がある。子どもや保護者だけでなく、地域にも丁寧に説明することが、安心感につながる。

【事務局】
本日の配布資料で、市民会議での意見交換のテーマについて、たたき台を示している。
その中に、地域クラブ活動の理解促進に関することを挙げており、本日も、非常に多くの構成員の方から意見をいただいた。
また、指導者の確保・充実もテーマに挙げているが、量と質の両面の確保が大事だという意見も、本日、各構成員からいただいた。
区や地域、種目によって活動機会に差があることについては、学校部活動の課題でもあるのだが、全ての子どもたちの機会をという意見を本日いただいた。大事な検討テーマと考える。
活動場所・施設の確保という点では、今日、楽器に関する意見をいただいた。資料に挙げている課題は横串で書いているが、縦軸として、種目ならではの特質は必ずあると考えられるため、今後の市民会議の中でたたき台を示しながら意見をいただくことになると考える。
まずは、部活動の地域展開が何を目指しているのかをしっかりご理解を得るところに重点を置いていく。そして理解促進以外の論点についても順次、検討のたたき台を準備し、皆さんから意見をいただいていきたい。

【事務局】
部活動に従事したかったから教員になった人間もいる。しかし、それを今まさに変えていく時代になってきて、それをどう丁寧に、また皆さんの意見を得ながら真摯に進めていくかが重要ということを、本日改めて認識した。
２回目以降もご意見をいただければと思う。

【座長】
前回の「部活動の未来を考える会」にも関わってきたが、当時から、スポーツに比べ、文化系の部活動は道具、場所、指導者などの面で難しいというところからスタートしている。
スポーツや音楽をはじめとする文化を、子どもたちの中にどう広げていくかが重要である。教職員や地域の方を巻き込みながら、文化の継承という視点も含めて考えていくべき。そうすれば、子どもたちだけでなく、教職員や地域の方にとっ

ても満足する形となるのではないか。

　今後も、子どもたちの意見を取り入れながら、様々な立場からの意見やアイデアを得ながら、活発な議論を行い、より良いものにしていければと思う。

９　その他

市民による傍聴なし。北九州市議会議員５名が傍聴。

１０　問い合わせ先　　　教育委員会　総務企画部　企画調整課
電話番号　０９３－５８２－２３５７